



箕輪進修高校 進路指導室

2012. 6. 18

3, 4年生用 No.21

発想の転換が出来るか



ものづくり大国として「高生産性」と「高品質」を武器に世界市場を席巻していた日本の企業が苦戦をし、かつての勢いが無くなっています。**これまでの日本の企業の特徴は、既存の延長線上で改善を極め技術を洗練していくことに優れて**いました。携帯電話を例にとっても日本のそれは様々な機能を凝縮していくことに力を注いできましたが iphon の様な発想はついに日本からは生まれませんでした。**それまでとは全く異なる発想で新たなものを創り出すことが苦手**なのです。

最近日本の家電メーカーが次々に大きな赤字を出して撤退もしくは縮小を表明している液晶テレビも、いかに高品質化しても所詮従来の延長の技術改善に留まり、全く新たな目先の変った劇的変化がないために、価格競争に陥り限界が見えてしまったのでしょう。

アメリカでも幾度かそうした窮地にあっていましたが、これまでのルールとは全く異なった新しい発想で時代を切り開く人がしばしば現れ、世界をリードしてきました。日本のソニーはかつてそんな会社で、世界中から注目されていましたが今はかつての面影が無くなってしまいました。

誰も考えなかったような発想の転換が出来なくてはこれからの世の中で生き残ることが出来ない時代です。若い人は既存の考えにとらわれず、新しい発想が出来ます。皆さんも豊かな発想力を発揮し世の中に何か貢献できる一人になって欲しいものです。



日本軍とシーガー

(余談ついでにもう一話)

1944年6月、第二次世界大戦のマリアナ沖海戦ではレーダーによる戦闘機の待ち伏せ等により終始米軍が圧倒し、日本は航空機の70%以上の約400機の戦闘機をこの戦いで失いました。

日本ではそれまでにレーダーの研究が行われていなかったわけではありません。1940年末、日本がドイツに送った軍事使節団がドイツ軍の実戦配備していたレーダーの威力に驚き、1941年より本格的な研究が進められました。科学者が賢明なレーダー開発を行い、マイクロ波マグネトロンと八木アンテナという優れた要素技術を他国に先駆けて発明していたのに、海軍ではレーダーの重要性をほとんど理解することなく、むしろ兵器として使えないと徹底的に軽視していたのです。

トップに立つものがきちんと物事の善し悪しを認識することが出来ずリーダーシップを発揮せず、しかも組織が固定観念にとらわれ硬直化して柔軟に対応しようとしなかったことに大きな敗因がありました。

(この方の理由、ただそれだけ)

誰もその壁を
垂れ替えてみれば、
思っていたよりも低い壁に
苦しんでいたことに気づく。
それを成長といふのだらう。

